

大仙市アーカイブズ ニュースレター 第19号

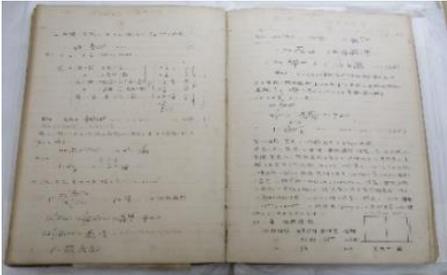


大仙市マスコットキャラクター
まるひちゃん

令和5年度企画展 物部長穂と関東大震災100年 ～展示資料の紹介～

大正12年（1923）年9月1日に発生した関東大震災。令和5年は震災から100年の節目の年です。大仙市協和地域出身の工学博士・物部長穂が残した当時の記録から、大震災の実際と、情熱を傾けた研究成果に迫るべく、令和5年度企画展を開催しました。

構造物ノ振動並ニ其耐震性ニ就テ（大正6～13年）



大正9年に東京帝国大学に提出し、工学博士の学位を取得した論文。大正13年1月まで加筆したものと推察される。

（物部長穂関連資料）

関東大地震写真帖 橋梁之部 其一（大正12年）



橋梁の被害を撮影した写真帖

（物部長穂関連資料）

揺ぎし跡（大正12年秋）



関東大震災の震害調査報告。東京府と神奈川県が対象。概況では、震度や振動の方向、被害の状況などをまとめ、第1図～第105図までの写真及び解説図式と、最後に被災写真が貼付されている。

（物部長穂関連資料）

土木耐震学



昭和8年に発行された著書「土木耐震学」。直筆と思われる修正箇所が随所にあり、出版後も修正されていたことがわかる。

（物部長穂関連資料）



期間：10月17日（火）
～12月16日（土）
会場：大仙市アーカイブズ
来場：のべ103人

ものべながほ
物部長穂
(1888-1941)



関東大震災で震災予防調査会委員として調査を行い、耐震工学の基礎を築いたのが協和地域出身の物部長穂です。

震災当時、長穂は35歳。内務省技師の傍ら、3年前に東京帝国大学で工学博士の学位を取得するなど、構造物の耐震理論について研究を進めていました。

長穂は被害状況を詳細に分析し、地盤の振動を加味した耐震構造理論を発表しました。昭和8年発行の「土木耐震学」は関東大震災の調査成果を踏まえた研究の集大成といえるものです。

東京帝国大学教授を兼任し、土木工学界で活躍する後進の育成にも力を注ぎました。



震災書類 渋谷書記扱（大正12年）

関東大震災による角間川町の避難者等調査について書かれた公文書。調査内容によると、早い人は9月5日には帰省しており、震災直後から10月末までに30名の角間川出身者等が避難していたことがわかる。そのうち数名は、角間川での就職を希望している。（大曲市役所文書）



日記（大正12年9月2日）

大曲町長などを歴任した田口松圃の日記。関東地方を襲った大地震を知ったのは、地震発生翌日の9月2日。発生直後の混乱や、日が経つにつれて明らかになる被害状況、知人の安否を心配する人々の様子が記されている。（田口松圃家資料）

九月二日

（前略）秋田新聞ニ東京ニ昨日午前十一時頃？大地震あり。全市大火災、水道断水、電灯消え、電信電話不通大惨状ノこと見ゆ。詳報ハ一切不明。午后、警察ニ着シタル電報ニハ、皇居炎上、三越帝劇、警視庁上野駅等焼失、横浜全滅等あり。（中略）知人の安否などハ勿論、只痛心するのみ。（後略）



庶務事務簿 永久（大正12年）

避難者が移動する場合の無賃及び割引についての通知や、支払い期限延期などについての通牒が出された。そのほか、人手の足りない被災地へ就職する豊職人の斡旋も行われた。

（大沢郷村役場文書）



ホームページで、展示資料を紹介しています。

茶谷十六委員 地域文化功労者表彰受賞 ～太田町史監修などが評価～

大仙市アーカイブズ運営審議会委員の茶谷十六ちゃだにじゅうろくさんが、令和5年度地域文化功労者表彰（文部科学大臣表彰）を受賞されました。

茶谷さんの功績のうち、大仙市アーカイブズと関係深いものが太田町史編さん事業です。

太田町史編さん事業は、平成14年度から始まり、17年の市町村合併後は大仙市に引き継がれ、平成19年3月に「太田町史」が刊行されました。監修であった茶谷さんの指導のもと、地域に残された資料をパソコンで整理・分析する手法を採り入れました。

茶谷さんが提唱した自治体史編さん事業は、「本が完成したら終わりではなく、地域に残された資料を市民が共有できる体制をつくるのが本当の目的である」というもので、その手法と理念が、大仙市アーカイブズ設置につながっています。

